

---

# 癒し手：ソラ

ムー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

癒し手：ソラ

### 【コード】

N0072K

### 【作者名】

ムー

### 【あらすじ】

どこかの町で

魔法についてソラと

「ウミのその手はどうなってるんですか？」

「？なにがですか？」

「ほら、清らかなるゝ・・・なんだっけ　^^；」

「ああ、

清らかなる其の癒し手、失いし力とならん、ですよ^^」

「そうそう、それ唱えた後、何だか手が不思議な色に包まれて。僕の傷、治してくれるじゃないか。」

「それがどうかしましたか？」

「えゝ^^；疑問系なんですか？  
結構すごいことっていうかなんていうか。」

「？ソラにはできないの？」

「え、うん。できんできん。

てか、みんなできないと思うよ?」

「私の周りの人はみんなできますよ?」

「えー、嘘だー?」

「ホントです！ソラにもきつとできるよ?」

「いやー、それはないでしょう^^」

「できますできます！ほら、やってみましょうね」

「うー・・・し。やってみましょうか！」

「はい」

私が教えてさしあげますよ？

さあさ、手をかしてください。」

「うえ！？」

(マジか <>

て、手汗が^^^；)

「はい、こうですか」

「はいはい。」

(うげ、や、やわらかい。

いつもやってもらってるけど、

あらためて触れると・・・やっぱりやわらかいなあ)

「？ どうしました？顔真っ赤にして？」

(ひえー、言わないでください)

「な、なんでもないです <>」

「 ? 大丈夫ですか？やめますか？」

(!?)

「いえ！断固やります！」

「 ? よし、じゃあいきますよ。

魔力を手に集中させて、風をイメージして。  
そこに緑を加えてください。」

「つてちよいちよい。

さっぱりわからんですが^^;」

「 ?」

「なにがですか？」

「なにがっていつか最初から？」

「 ? まず魔力を手に集中させてー・・・」

「はい、そっからわかりません！」

「えー、そうなの？」

「魔力ってなんですか？」

「魔力は、ほら、自分の体を意識すると何かめぐるものがある  
じゃないですか？」

それが魔力っていうんですよ？」

( 巡るもの？ )

「何かめぐってるもの？」

「・・・そんなの感じたことないけどなあ？」

「ソラは鈍感なんですか？」

「えー、そうなっちゃうの^^;」

「魔力を感じる力は人それぞれで、感じにくい子はちょっと鈍感なんだよって、

おばあちゃんが言ってましたよ^^？

ソラくんは鈍感なんですわ^^」

「ば、バカにするんでないよ <>」

( ホントおばあちゃんっこだなあ・・・

うーん、いい笑顔！ )

「でも、どんなに鈍感な子でも魔力はあるんだよって、おばあちゃん言ってます！

だから、ソラもきつとできますよ!」

「いいですかー、

手に意識を集中させて・・・」

( むー・・・ )

「そこに緑を加えます」

(み、緑?)

「はい、緑ってなんですか!」

「えー、またですかー^^^;?」

「だ、だってわからないんですよ?」

(あ、ちよつと疑問系がうつつてしまった)

「しょうがないですねー^^^;」

とは言っても、これはやっぱりイメージの問題だから・・・

私の手のイメージをそのまま集中してる自分の手に加えてみて?  
そしたらきつとうまくできますよ

(・・・さ、さっぱりわからんのだが^^^;)

「じゃあいきますよー?」

手に意識を集中させて・・・

(むー・・・・・・ウミの手の感触に意識がいつてまっ  
んよねー^^^;)

「そこに緑を加えます」

(緑、緑・・・)

「、こんな感じ?」

「で、合言葉です。」

(えーと)

「き、清らかなる其の癒し手・・・失いし力とならん？」

「・・・」

「・・・」

(えーと・・・)

「できませんね」

「できないですね」

(できる気がしないんですが^^;) )

「や、やっぱり無理なんじゃ？」

「うーん・・・おかしいなあ・・・」

「やっぱりソラが鈍感だから^^?」

「むむ、まだいいですか <>!」

「あはは、冗談です^^」

でも、できるはずなんですけどねえ。  
なにか手に変化なかったですか？  
ぬくもりを感じるのか？」

(ぬくもりはずっと感じてました!)



「な、なかったです。」

「うーん、まあ、そのうちできるよつになりますよ^^」

（うーん、そうなのかなあ？

いやいや、おかしいよねやっぱり？

ウミが特別？でもまわりの人みんなできるって言ってたしなあ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0072k/>

---

癒し手：ソラ

2010年10月21日20時17分発行